

各魚種のコイヘルペスウイルス(KHV)検査結果

吉岡 剛

◆背景・目的

コイヘルペスウイルス (KHV) に感受性を示す魚種はコイのみであるとされている。本県では、アユ種苗を全国に出荷しており、アユがKHVを伝搬する等の風評被害からアユの買い控え等の問題が起きている。そこで、この問題を払拭するため琵琶湖で斃死していたアユ、漁獲されたアユ、養殖アユのKHV検査を行うことにより、アユがKHVに感染しないこと確認し、その他魚種についてもKHV検査を行った。

◆成果の内容・特徴

- 琵琶湖で斃死していた、コイ、アユ、ニゴロブナ、ニゴイ、ギンブナ、ハス、カムルチー、オオクチバスをPCR法でKHV検査した結果、コイ以外は全て陰性であった。
- 琵琶湖で漁獲された、コイ、アユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、ワカサギ、ビワマス、ブルーギル、ギンブナ、オオクチバスおよび養殖アユをPCR法でKHV検査した結果、コイ以外は全て陰性であった。
- 寺院の池でKHVが発生し、全数処分が行われた。その池の魚類をPCR法で検査した結果、コイの一部は陽性であったが、ソウギョ、ギンブナ、モツゴは全て陰性であった。

◆成果の活用・留意点

- 琵琶湖で斃死していたアユ、漁獲されたアユ、養殖アユのすべてにおいてKHV検査の結果、KHVは陰性であった。従って、今回の調査結果から、アユがKHVを伝搬する可能性は認められなかった。

